

今日の神道

根本八五郎編輯

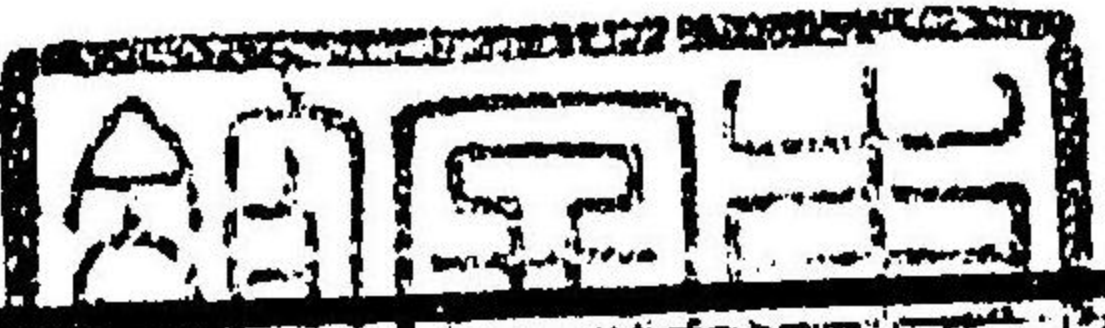
下

館蔵書會育教本日大			
二册	一九八號	三架	一七函

附  
743

同古十九年十一月廿九日内務省交付ノル

實教會



禰書（禰書）天照大神諸の神を召會て葦原中津國へ遣ハ

者（者）を撰主（撰主）ひに盤裂根裂神の孫經津主神小議定し

時稜威雄走神（稜威雄走神）の曾孫武甕槌神進出て經津主神ひとり丈夫

氣憤々ありたり然（然）俱（俱）行（行）べし是（是）二神を

いされ此國の主ある大國主神その子事代主神

と共（共）天照大神の命（命）不隨（不隨）ひく此國を捧（捧）べき由を二神に答

けふ事代主神の弟建御名方神（建御名方神）を拒（拒）て數回二神と鬪（鬪）ひ

終（終）信濃國諏訪の湖の邊（邊）追詰（追詰）らして降參（降參）命（命）を

良大...

助玉すけたまはらむ此地このちを留とどまりて永ながく守護しゆごせむと誓ちかひたれば  
 二神ふたがみハ之これを助け葦原あしはらの國くにを請取うけとりて大神おほがみへ復命かへごし玉たまひたり  
 因よりて天皇孫あめみまを此國このくにへ降くだりて主あまとあり玉たまふ是我天朝われあめみまの始はじめ  
 あり此皇孫このみまを降くだり玉たまふとき大神御身おほがみみの神影かみかげを移うつり作つくらせ  
 玉たまひたる神鏡かみかがみを皇孫みまへ授たまりて曰いわく此鏡このかみかがみを見みると吾われ如ごとく思おもひ  
 天下あめがさを治おさめ玉たまへとぞ教あづかり玉たまふ此神鏡このかみかがみ代々よつとの天朝あめみまへ傳つたへり内侍ないじ  
 所ところと崇あがめられて三種みつたぐの内うちも別わかれて尊たうとき神寶かみたからと成なりにたる扱さる  
 斯大功このたからを立たて玉たまひり二神ふたがみあれが經津主神ふつぬしのかみを下総國しもすまのくにの一宮ひとみやとし

香取神宮かとりじんぐうと祭り武甕槌神たけすぢうづぢうと常陸國とこがの一宮ひとみやと鹿島神宮かしまじんぐう  
 と祭り國土くにの守護神しゆごがみとなり玉たまふ是將軍副將軍しやうじんふくしやうじんの元祖もとすぢあり  
 ことぞ爰こゝ世よか名高なたかき村上むらかみ誠翁先生まことのおきなハ天保てんぽうの頃ころより舊江戸ふるえどへ出でられ  
 くと世界よこ乃物知早學問ものしはやがくもんと記しる招牌かんばんを掲あげて神儒佛かみにうぶつの三道さんだうハ更さら  
 なり天地万物てんちばんぶつの道理たうりを詳細つていしう小説論せうせつろんされ人々ひとびとと共とも小聽問こしやうもん  
 せし無畏むゐハ殊ことハ神道かみちうを好このむれば先生おきなの言ことハ從したがひて四十餘年しじゆねんの  
 間まこれを試行たしやうひ見みる天地てんちの道みちハ違ちがはぬと毫こもなく最も貴たかき教きやう  
 かり叔先生おしやうせいハ博學はくがくかむ自ら教あづかり弘ひろめて世よの人ひとを諭さとさると共とも無畏むゐ

八無學ある故之を實地不行ひく歳既八十に及び始て生身の  
 國常立尊を拜し稍く安堵の思ひせり因て是まで修行し  
 其概畧を速んとし抑人の肝要と天理の一ツを悟りしとる  
 八紀記を學ふらして日本紀ふ天地之中生一物狀如葦牙  
 便化為神號國常立尊とみ元古事記ふ國雅如浮脂而  
 久羅下那洲多陀用幣琉之時如葦牙因萌騰之物成神名  
 宇麻志阿斯訶備比古遲神とみ此國常立尊こそ此大  
 日本國の元つ大神かと仰ぎ奉るに古事記の初に高天

原成神名天御中主神とみえく其下は天之常立神國之常  
 立神とありといふに思ひ感ひし思兼神依ふ國常立  
 尊と天御中主神とは同神異名と悟を得らぬとは古事記  
 小並獨神成坐而隱身也といふはもろ隱身玉と訓ふを  
 たび同書は序小參神作造化之首陰陽斯開二靈為群品  
 之祖とみおほはかり然れハ伊弉諾伊弉冊尊を天照  
 大御神を今上天皇もこが國常立尊は今御靈は坐  
 て一神分靈は坐すといふ識者の論を俟び之を知るを天

理の一を悟さとるといひて 天照大御神の高天原を去ると  
 免まるゝも伊弉諾尊イハノノノミに御言依ミコトコトしふと 今上天皇の此國  
 を知食チクシクととも宝祚ホウソク之隆ノトキ當與トモニ天壤無窮アメノミチニ矣と 天照大御神  
 此御言依ミコトコトしを冠かむかて坐まて皇孫ミマノ迄マ岐命タケノミ乃日向國高千穗タカチホに  
 峰ミネ天降アメノて海ウミへて火々出見命ヒヒノ葦アシ不合命フセ磐余彦命イハレヒコとほの  
 木の心ココロやつぎてて生なまると天の下アメノけ事を知食チクシクつゝ萬の民草を  
 撫育なで玉たまの一年いちねんのちと 神武天皇即位元年と 今上天皇  
 即位元年まで二千五百四十六年聖王二百二十三代皇統みかど連綿つらなと

まゝして天壤あめつちと共とも大御代の窮きゆうて無なくと則國常立すなはち立た立た榮さか  
 まは御志ミコトコトふふなも此天このあめ下したふ人の住處すまひは三千世界も有と  
 いひてかゝる尊たかき國くにやとあふ此尊このたかきは國常立くにのこゝろ乃神隨かみまの  
 道みちは尊たかきをいふもく萬國ばんこく小勝せうかつし神業かみわざなり神かみハ即銘すなはち々乃  
 先祖せんぞを異物ことものの如ごとく思おもふめ人乃ひと我われらとといひてやし  
 むむる聲こゑの聞きこえられがたたななとあふと一言ひとこと王みの  
 神かみハ微こゝろひて一言ひとこととむと曾母そとと神かみハ原素人もとなり怪物まがもの  
 とれ思おもひそ人ひとハ萬物の靈長たまといひて此世このよの中に人ひとも尊たかき

はちし又賤きものなり尊きは國家の安全を守。神と也  
賤しきは安全を妨ぐ類惡鬼となりて國に患をまなすゆゑ  
よ御世の事能あり神習へ現しき青人草習へやと古事  
記ふみえし然るをも能も神習ひて五月蠅かす惡鬼不相  
まじらう相らぬあり法師づればたのがきく釋むがめはく  
ひぬかふらうらひ來し今世ありはきは古の如く万  
邦の人々も神別とひらぐ礼君子國となふと戸もく世界の  
上も立む事かこしきくははらもど橘守部大人のうらふ

神習ひのまらう魂ひまがくは八十外國をてしひまらうに  
とらう此心もて法師の釋むがえく僻事なく神習の道と  
ゆきうひはら外國學びびそ耶蘓ふまね何よまもまこれ國の光  
華こなまらう世界のよ輝ん茲よ次でいそまははらうこれ  
と明治十五年也

勅諭

我國躰も戻て我祖宗に御制も背き淺すに次第なり凡  
生を我國も稟る者誰かは國も報ゆる心なすのほらき汝等

其職を守り朕と一心となりて力を國家の保護に盡さば  
我國の蒼生は永く太平の福をうけ我國の威烈は天下世界の  
光華とも成ぬべし朕かくも深く望むるも報國の心堅固あり  
けりといはれど枝藝に熟し學術に長じても猶偶人なむとし  
かざるべしとの

睿旨を特聽し君諭の厚きを身づくろい人なりある軍人抱く  
に農工商とも銘々其職を守り報國の心を堅固し國家に  
死力を盡さんには有べくは報國赤心の義務を枝藝學術

小熟長きを以て誇るるに儒者は儒道なりては治國平  
天下は成かざるに佛子は佛道なりては國家の人心を和  
むる事難しといひ洋學専門の博士は洋教ありては當今の國  
家に維持仕むるに國是を盡さんる愛國の精忠にぞもか  
らうはなれども我國身に成ては 睿旨に背き宗祖の制  
よりおひては互に子孫に生れし甲斐なきは儒道にまじ  
皇國に参りて來ざる 四百五十年前 開化天皇に御宇  
皇徳外國に輝て大迦羅人の歸化せし事書紀に問答のみえ又

崇神天皇十年置將軍四道平遠夷と記一同土年海外平定

歸化多し一同六十五年任那始入貢と年契小記載を之小因て

か此 天皇を御肇國天皇と稱一奉てきと史學雜誌のみ又

無仁天皇三年新羅王之子歸化獻宝物とみえしうて以後

應神天皇十六年小至りて王仁來朝始傳經典とみゆ然もは

神代より今年まで修身齊家治國平天下かといひ漢言はき

知らされども大伽羅人の歸化をるまで小皇威全國に餘り事

偏小國常立尊の御神徳より儒は 神武天皇御中興以來

九百四十五年以後小渡て佛は千二百年の後小來りて上古の神

習を儒佛の教者ハ知らざる答なり小佛子等猥に神道を釋て

神佛混淆せしを 今上天皇區別の 御言告りてせられしを佛

さびらる輩は心得も心して我家を先祖代々此宗なりとハ今更

改め難しと誇てか小廣言しと 勅旨を奉戴せざるも國民

小非はと云も妨なりゆてさて何宗と云ふ事の原ハ切支丹宗

停止の砌其調を諸宗の僧侶小命せられ今の戸籍掛て此如

全國乃人別調帳を宗旨帳と名づけ先祖代々何宗小して當



寺の且那まさん紛無まきり之旨請まきり合の証印まきりして各寺の住職まきり社奉行所  
 差出さしだく文言ごんごうといつゝ耳みみ馴なて先祖代々我ハ何宗なにしゆといひ  
 皇國こく人民の先祖ハ皆神かみ也て宗を問とはし時ハ唯一宗源いっしゆげんとて答こたへ  
 べり此唯一いっしゆ儒佛の教法ハ混淆こんごうせざる天理のてんり一をひとひかす宗は  
 タツトブ源げんはこナモトと訓とむれば皆元みなもとを尊たつとぶの義ぎなりて  
 源げんは水原みづはらといふも書かて水上みづの上と同義也どうぎ也なりナカは水神みづかみ也なりて水中  
 主大神なみなり紀記きハ御中主みちぬしとあるを水中みづの中とあるを神皇實録かみみことまこと  
 天御中主命あまのみちぬしのみことは又の名なと御氣都神みけつのかみとて以もつ一水徳利みづのくち万品命よろひのひたひたのみこととみ

元又水はもとまたみづニケツの中畧ちゆうりやくなりと鎮坐ちんざ本記ほんきハた斯かい  
 ハ東京本郷區駒込追分町根本堂無畏ほんこんほん郷くまごみおひわか根本堂むゐ  
 増ま久く常じょう建けん神かみ社しゃ

明治十八年七月二十四日 版權免許

同 十九年十月二十八日 出版 定價金五錢

東京府平民本郷區駒込追分町五十七番地

編輯兼 八十七翁 根本八五郎



欠

MISSING

跋今日の神道

東京とうきょうの北隅きたぐしの一畸人ひとしじん在ある通称つうしやう根本こんぽん八五郎はちごろう蓋是たしんあり

無畏むゐと号ごうし、一ひと廟宇めううを取とりて根本堂こんぽんどうと別号べつごうに常陸国ひまろのくに

久慈郡くじ増井村まゐいむらの農家のうけに産うまひて中年ちゆうねん高たかし、轉まじりて府ふにで出でて

駒込こまごみ追分おひぶん町まちに住すみ、眼鏡めがねを賣うりて業わざとし、好このんで神道しんどうを脩しゆむ

一ひと並勤なびきんをて曾そと一日いちにちを怠おろそかにし、幾いくんど今茲けふこゝ五十年ごじゅうねん

天性てんせい正直せきちき身み又また強壯きやうじやう常つねに三四貫さんしよくわんの荷にを負おひ、高足たかあし疾歩しやくぽ

日ひか市しを廻まわると五六里ごろうりを欠かび而しかして歳とし八十六はちじゅうろく今日けふ

猶昔日のどし且嘗て居を移さば是を以て遠近能之を  
 知り實小奇中の奇と謂べし近來誠翁先生を請じ  
 明治養生會を駒込蓬萊町萬年山勝林寺に設けて廣く世の  
 老幼の益せむとに此書の維其餘あり嗚乎是翁が老  
 實子之を羨むと己小三十有餘年編成嗚小應ト僅か  
 其履歷を畧記して以て此巻の尾を緘じ

明治十八年夏日 輦下市隱松不二雄識

245

